

令和8年3月

世田谷区立瀬田小学校 学校長
日高 玲子殿

学校関係者評価結果

委員長 佐藤 春美
委員 百瀬 雪江
五十嵐裕紀子
黒崎 正裕
鴻池 美穂
中村 綾子
樋口 徹

瀬田小学校学校関係者評価委員会では、本年度実施した「学校評価アンケート調査」の集計結果に基づき、外部委員としての視点から評価および所見をまとめ、本報告書を作成した。

本年度の調査においても調査項目を昨年度と継続させることで、単年度の評価にとどまらず、本年度における学校運営の変化や進捗をより明確かつ多角的に分析・評価することが可能となった。

加えて、昨年度の方針を継続し自由記述欄を設置した。回答者の匿名性を担保した上で、数値化できない忌憚のない意見を広く収集し、評価の深度を高める一助とした。

アンケート調査実施概要

	総数	回収	回収率 (%)
児童 (5・6年生)	283	257	90%
保護者 (全学年)	760	370	48%
地域	54	21	38%

肯定的回答 (とても思う・思う)

否定的回答 (あまり思わない・思わない)

その他の回答 (わからない)

令和7年度学校関係者評価アンケート結果に対する考察および提言

1. 学習指導について

本校は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。
--

本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。

本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。

本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

肯定的回答は【児童】72%～96%、【保護者】68%～80%と高い水準にあり、昨年度と比較しても肯定的な評価が向上している。保護者回答の中で最も評価が低かった項目は「黒板の書き方やプリントなどの工夫」であったが、この点についても昨年度より改善が見られる。

一方、タブレット端末に関しては、児童から「もっと積極的に活用してほしい」との声が複数上がっており、クラス間での利用頻度の差に関する指摘も見られた。活用方法や頻度に教職員間でばらつきがある点については、本委員会としても学校側が課題として認識していることを確認済みである。今後は、利用方針のさらなる徹底とともに、指導技術の平準化および底上げを図ることを期待したい。

2. 生活指導について

本校の児童は、自分からすすんで挨拶ができる。

本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。

本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。
--

学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。

肯定的回答は【児童】71～89%、【保護者】74%～85%となった。保護者の評価は全体的に上向き傾向にあるものの、児童については「自分からすすんで挨拶ができる」の項目が約5ポイント減少した。これに関連して、地域へのアンケートにおける「本校の児童は挨拶や返事ができる」という項目でも約8ポイントの低下が見られた。この要因の一つとして、月一回の土曜登校日の廃止に伴い、「おやじの会」による交通指導をはじめとした地域の方々と関わる機会が減少していることも影響していると考えられる。

また、「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」という項目に関し、児童の評価が約10ポイント低下している。指導の公平性については、児童の自由記述欄でも複数の指摘が見られた。多様な価値観が尊重される現代において、一律な指導を行うことの難しさはあると推察するが、ルールを守っている児童が不満や不公平感を感じないように、毅然かつ公平な対応を強く望むものである。

3. 学校行事について

学校行事は、子どもにとって楽しい。
学校行事は、子どもにとって達成感がある。
本校は、子どもの意欲を大切にしている。
事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。

【児童】【保護者】ともに肯定的回答が大幅に向上し、児童は85～91%、保護者は88～96%という極めて高い数値を示した。これは、これまで学年別等の分散開催を余儀なくされていた音楽会や運動会などの学校行事を、本年度は全学年一斉という本来の形で実施できたことが大きな要因であると考えられる。

学校行事の充実に際し、尽力された教職員はもとより、多大なる理解と協力を寄せられた保護者や地域の方々に対し、深く敬意を表したい。また、昨年引き続きグラウンドや設備を提供し、教育活動を支えていただいた瀬田中学校の協力についても、学校評価委員として高く評価するものである。

4. キャリア教育について

自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。
目標をもち、その実現に向けて努力している。
本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。
区立中学校に関する情報が提供されている。

【児童】【保護者】共に肯定的意見が大幅に増加する結果となった。これは、肯定的回答が50%を下回っていた昨年度の結果を真摯に受け止め、学校側が意識的に改善を講じてきた成果であると判断できる。

特に、他項目とも関連するが、中学校との連携による情報提供など、情報の告知・周知が以前よりも円滑に運用されている点が、評価の向上に直結していると考えられる。このような学校運営の改善に対する主体的な姿勢は、委員として高く評価したい。

5. 教職員について

本校（先生たち）は、丁寧に指導している。
本校（先生たち）は、子どものことを相談しやすい。

【児童】の項目において、指導に関連する肯定的回答は約90%と前年同水準を維持し、「子どものことを相談しやすい」については昨年度より約5ポイント増加する結果となった。相談体制の充実が昨年度の課題であったが、学校側が適切な対策を講じたことが数値の改善として如実に表れたものと評価できる。

【保護者】の項目についても、いずれの設問も昨年度より約7ポイント増加しており、2年連続で肯定的評価が向上した。一連の結果から、本校の教職員に対する保護者からの信頼お

よび評価は、極めて高い水準にあると判断できる。

6. 学校全般について

学校生活は楽しい。
学校が好き。
私は、家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている。
私は、塾で学習している。
学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。
本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。
本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。

【児童】【保護者】共に、昨年度と比較して肯定的意見が全体的に増加した。特筆すべきは、児童の「学校が好き」という項目において肯定的意見が大幅に伸長した点であり、学校生活の充実度を裏付けるものとして高く評価したい。

また、【児童】【保護者】双方において「学び舎（地域連携）」に関する評価が大幅に改善した点も強調すべき事項である。これは、学校側が関係各所との連携強化や、きめ細かな情報提供に注力し、運用を改善してきた証左と言える。こうした学校側の組織的な取り組みと連携の深化は、教育環境の向上に大きく寄与しており、大いに評価するものである。

7. 学校からの情報提供について

本校は、様々な便りなどで、保護者（地域）に情報を提供している。
「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。
本校は、ホームページやメールなどで、保護者（地域）に情報を提供している。
学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。

【保護者】【地域】ともに昨年度から肯定的意見が増加しており、着実な運営改善が認められる。特筆すべきは、学校ホームページやメール配信等による情報提供の項目が大幅に改善している点である。これは、デジタルツールを効果的に活用した情報発信が、保護者や地域住民のニーズに即して円滑に機能していることを示している。適時適切な情報共有への積極的な取り組みは、開かれた学校運営の観点からも極めて有意義であり、高く評価したい。

8. 学校運営について

本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。
校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。
地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。

【保護者】の調査において、昨年度は肯定的回答が66%に留まっていた「学校の重点目標を伝えている」に関する項目が、本年度は80%を超える結果となった。この躍進は、学校側の積極的な情報発信が奏功し、教育方針への理解と浸透が着実に進んだ結果であると言える。また、「教育活動への協力（※項目9に関連）」についても肯定的回答が87%と大幅に増加した。これらの数値は、学校が提示した改善施策が有効に機能し、保護者からの高い信頼を獲得している証左であり、高く評価したい。

【地域】についても昨年度に引き続き高水準な評価を維持しており、地域社会との良好かつ安定した関係性が継続されている。学校と地域が長年にわたり築き上げてきた協力体制が、揺るぎないものとして定着している点は、委員として極めて喜ばしい。

9. 学校と家庭の連携について

私は、学校公開にすすんで参加している。
私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。
私は、今年度の学校重点目標を理解している。

【保護者】の回答において、「今年度の学校重点目標を理解している」の項目では大幅な改善が見られた。一方で、「学校公開への参加」や「PTAや地域主催の行事などへの協力」については、肯定的意見が微減する結果となった。これは、土曜授業の廃止や共働き世帯の増加といった社会背景、および生活様式の変化が色濃く反映されたものと推察される。しかしながら、学校行事やPTA活動は、保護者が子の成長を間近で実感できる貴重な機会である。今後は、単なる事務的な告知に留まらず、行事を通じて子とともに活動を作り上げる意義や、参画すること自体の魅力についての発信を強化することを期待したい。保護者の積極的な参加を促すような、新たなアプローチの検討を望むものである。

10. 地域との連携について

本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている。
本校は、地域の活動などに協力的である。
本校は、地域に情報を提供している。
学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。
学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。

【保護者】の回答では、地域連携に関する全項目において肯定的意見が大きく増加しており、学校側の改善姿勢が明確に評価される結果となった。

【地域】については、昨年度同様に高水準な評価を維持している。「地域の協力が学校活動にとって必要不可欠である」という認識が保護者の間にも深く浸透している点は、本校の教育コミュニティとしての成熟度を示すものである。今後も学校・保護者・地域の三者の緊密な連携が継続されることを、本委員会としても強く期待する。

11. 学校の安全性について

本校は、安全な学校づくりを進めている。
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。
本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。
学校は、安全性を高めようと地域と協力している。

【保護者】の評価については、昨年度をさらに上回る肯定的意見が寄せられ、極めて高い評価を得るに至った。【地域】においても昨年度と同水準の非常に高い評価を維持している。こうした評価の背景には、新校舎の完成および運用の開始があり、教育環境の整備が保護者や地域の安心感を高める大きな要因となったものと推察される。次年度には校庭を含めたすべての施設が完全運用を開始する予定である。学校側においては、新設備の円滑な活用を図るとともに、これまで以上に地域との連携を深化させ、安全・安心な学校づくりの継続に尽力されたい。

12. 自由記述欄について

昨年度に続き、本年度も自由記述欄を設置し、数値データのみでは捉えきれない事象の把握に努めた。個別事象や個人特定に繋がる記述が含まれるため、全文公開は昨年度の方針を踏襲し不可と判断したが、多くの回答に共通する意見・指摘について以下に総括する。

児童（有効回答数 88） 学校生活や教職員に対する肯定的意見が数多く寄せられた点が極めて印象的であった。これは教職員と児童の間に良好な信頼関係が構築されている証左であり、高く評価したい。また、学校生活に関する具体的な提案に加え、「大人ともっと対話したい、相談したい」という要望が複数見られた。これに対し、学校側が児童の発する「SOS」を逃さない環境づくりの重要性を再認識し、不断の改善に取り組んでいることを本委員会としても確認した。

保護者（有効回答数 49） 多岐にわたる指摘や提案が寄せられた。中には厳しい意見も含まれているが、学校側がこれらを真摯に受け止め、改善に向けて動いていることを確認している。一方で、昨年度と比較して教職員への感謝や労いの言葉が顕著に増加した。特に教職員の働き方改革や過重な負担を懸念する声も寄せられており、保護者の理解が深まっていることが伺える。

全体の傾向として、学校・児童・保護者の三者間の関係性は昨年度よりも確実に深化している。今後も、少数意見であっても否定的な事象には真摯に寄り添い、改善の姿勢を堅持することで、さらなる教育環境の向上に努めていただきたい。

13. まとめ

本年度の学校関係者評価の結果を総括すると、概ね全ての項目において肯定的意見が大幅な伸長を見せており、学校運営が極めて健全かつ着実に推進されていることが示された。昨年度の調査で浮き彫りとなった課題に対し、教職員組織が一体となって改善に取り組んできた成果が、数値と自由記述の両面に如実に表れている点は、本委員会としても高く評価したい。

特に、昨年度の懸案事項であった「学校からの情報提供」については、デジタルツールの活用や学び舎に関連する発信の強化により、大幅な改善を遂げた。これにより、学校の教育方針や活動の様子が保護者や地域に深く浸透し、安心感の醸成に繋がっている。また、地域社会との協力体制についても、昨年度に引き続き高水準な評価を維持しており、学校・家庭・地域の三者が互いを信頼し支え合う土壌が、揺るぎないものとして定着している。

一方で、教職員に対する信頼が深まるなか、生活指導面等における公平性の確保や、直接の対話を求める児童の声が少数ながら寄せられていることも事実である。全体が良好な傾向にあるからこそ、その影に隠れがちな少数意見や、不安を抱える児童の心理的な機微を決して看過することなく、これまで以上に丁寧な寄り添いと不断の改善を継続していただきたい。

来年度、いよいよ新校舎が全面稼働を迎える。この充実した教育環境を最大限に活用し、

学校・家庭・地域がこれまで以上に固い絆で結ばれ、子どもたちが安全かつ健やかに成長できる学校づくりに尽力されることを切に願うものである。

なお、本委員会は本年度をもってその役割を終えるが、これまでの評価活動を通じて築かれた学校・家庭・地域の強固な信頼関係こそが、本校の最大の財産である。今後、学校運営が自己評価へと移行した後も、客観的な視点を失うことなく、地域社会と共に歩む開かれた教育の場であり続けることを信じて疑わない。